





門入遠13 待  
新 2208  
卷 27

星月夜頭晦録六編卷之二

目録

○阿野冠者謀叛小依滅亡新君鎌倉山下向

荻野景員河越重時四郎時元を摘圖

○頼茂謀叛滅亡尼公灵夢を蒙

伊勢太神尼公の夢不<sub>ち</sub>大乱を告<sub>げ</sub>ぬ<sub>る</sub>圖

白拍子龜菊仙洞へ愁訴の事





星月夜頭晦録六編卷之二

阿野冠者謀反依滅亡新君鎌倉也下向

阿野時元郎従の異を向金窪行近を討殺し討ちまゝに防戦及び仙洞の内心北条美時を悪む又彼所へ乞ふ美時誅戮の美を守護人も院宣を賜味方ぬせんと云又行近十分の軍威を示し跡より鎌倉へ至らんと云先彼を歸さば鎌倉の諸士美時を怨族へ此方の用意嚴重なるを告ぐ味方ぬる者出まらん討ちまゝに隋分防戦し私小鎌倉へ至り味方ぬせんと者を語ひ誰ぬとも一旗を揚べ討ち跡先敵有と心後るし其時討ちて敗らば足を止めざるを云と云族もあり其中必ず勝の奇斗を説くの有と云流石の鳥合の集勢過半ある故議

星月夜六編卷之二

二



論區とみしと更み決せば。よろしく時元必慮一。下先鎌倉小至尼公  
 諸老臣の疑念を散ト置の後心静小事を計んふと。と復び金  
 窪小對面。高命のつゝも恐入といふ。早速鎌倉小上と遂寸忠  
 の心底をト上いこえ。貴辺も能く執權へ取成頼入処とトけし。行近  
 安と神妙の美之某又詞を添能小中成いん必心痛ある。と  
 又時元悦ぶ。即從二十人斗を從へ金窪と打連鎌倉小。行近此  
 旨をト届け。老臣列座。と。金窪と時元を。此兼と  
 廣元入道の謀畧。荻野次郎景員河越次郎重時といふ。剛力  
 の士を襖の蔭小隠。忍む。侍所別當の詞終る。相図小有無を  
 言せ。生捕べ。と定置と。時小金窪時元を連と。おれ。尼公ハ  
 簾を垂と。座あり。廣元入道善信入道二階堂壹岐守行村三浦

平六兵衛尉美村亦左右小侯。諸士別當左衛門尉行親。阿  
 野四郎駿列の住人。と。我。小城郭を構へ。浪人溢者を集隠  
 謀の企其隠。た。依と。糾向せ。と。処と。トけし。時元返答。り  
 暨んと。も。時襖を。ら。り。と。押。荻野景員。ら。り。無と。組  
 付を。時元大。怒。是非を。糾。甚。無。礼。と。振。放。ト。揉。合。ける。河。越  
 重時。又。後。上。組。付。け。し。バ。四。郎。時。元。も。覺。の。者。と。い。ふ。を。兩。人。小。敵。ト  
 ぐ。終。小。面。縛。せ。れ。と。有。無。を。言。せ。引。立。と。宇。都。宮。四。郎。兵。衛  
 尉。小。召。預。け。し。れ。け。し。時。元。が。郎。從。此。を。使。大。小。警。於。周。章。と。皆。と  
 駿。列。へ。逃。歸。か。く。と。告。げ。し。バ。語。れ。と。集。勢。大。小。力。を。落。ト。追。散  
 失。郎。從。共。も。今。へ。誰。を。頼。小。復。と。と。定。と。鎌。倉。よ。り。討。小。來。ら  
 ば。忽。ち。詩。取。る。と。各。資。財。兵。具。を。棄。取。方。と。落。失。ぬ。四。郎。時。元。宇



都宮小種と打歎き某鎌倉家の肉親なる身ゆゑ何ぞ謀反の志  
あつんと陳防しけしども嚮小流言せしむる処も時元郎等を鎌  
倉小忍せ金銀を与へて斗ふる処明白小頭とける也預て人の方  
小於る。竟小誅戮を加られり。ふつと駿列の所領を没收し此  
度の使節金窪と力士二人と小賜恩賞有し大江山道穩便に  
討美圖小中と忽反人滅亡。尼公聊安堵小召けるあふ又  
京都の守護としく在京せし近江守頼茂へ三位入道源頼政の  
末葉とす。清和源氏ハ鎌倉家と同流とて先祖頼政も忠茂小  
命を隕せの上何とぞ武將の欠くる不棄とて我あそ宣下を蒙ら  
んと公卿小就と密小願を達し。鎌倉四代の武將小備下けりは  
身命を存と禁廷を守護し向後諸士の欠困小あふ其半を

以て天領小歸とせしと中とける。ささども此寛容易ぬとさとは  
何の也挨拶とてあれと打捨置とける仙洞へも此僻處を願んと  
欲すれた元来此人仙洞の也旨小叶さるべし合在けるふ洛中の騷乱  
も穩小あり。伊賀光季和泉守蓮阿入道へ兼と命せしと如く  
寢早鎌倉へ歸系有と然とてと勸るゆぞ頼茂内と公願の筋  
あれバ事を左右小寄と日を延し。只管傳奏小就と兼との祈を  
を頼入の挨拶とるを牙と催促小及ける。此時鎌倉小評議有とる  
とと東小武將とくハ萬民安堵の思ぬ。又も阿野次郎冠者  
如き叛逆の族あつと。靜濫の期有とと尼公も心小痛多ふ  
北条美時と當君をも首尾と謀あせし上ハ此虛小棄と其  
身武將小備んと受たゆと諸臣歸伏とす。死を必と一且君



荻野景員  
河越重時  
四郎時元之  
摘圖





家小縁ある方ゆゑ。成たけ幼少の人を撰び鎌倉小居置己權を  
專ふ。當か人かを安んじ。其後時節を伺ひるを測らば一巻  
しく志願を遂べしと深く心中秘し。尼公へ中上げる。故右幕下  
の姉公權中納言藤原能保卿の簾中より腹の息女後京  
極攝政藤原良經公の北の政所とちりせむ。光明峯寺の関白左  
大臣道家公を生む。然るに故右大納家の一族として旧好浅ら  
はかりしやま。道家公の北の政所へ西園寺太政大臣藤原公經公  
の女准三后從一位倫子とす。此は腹小男息餘多在何とあり  
とも関東へ下す。武將と仰奉らば當家小於と恥しうと  
勸やけは。此を然るを。但し其息の中何れを。中  
乞んと宣ふ時。道家公の三男をあそと中上る。是當年終小

二歳小成せる。尼公此を宜く斗らばと仰有けは。信濃守行光  
を中使として。宿老の諸臣連署の奏状を呈しなりける。傳  
奏聞ふ達せし。行光を暫く洛ふ。め。行光又九条左  
大臣道家公光明峯寺殿の中方へ。尼公の仰。諸老臣の願の旨を  
中上よりける。其後勅旋有と。関東より望亡処を勅許有けれ  
ば。行光を早く。鎌倉へ罷歸。禪尼の中使として。相模守平  
時房上京有。扈從の諸臣高卑一千騎新君中迎のゐるとして  
上洛ありける。去年冬より。當建曆七年小至と。種々の災變  
ある小依と。當夏改元有兼久と。然る小當七月道家公  
の三男三虎御前。関東へ中下向有。於小究。先春日の社  
小詣む。泰内院系あり。御馬法劍ホを下し。賜。一条の亭よ



六波羅へ程せむ。都を由出興ある。先へ女房達衆興雜仕  
 一人乳母二人阿監ゆを右衛門督局一条局此外北条相列時  
 房の室家ゆづとを花をかざりて出立せける。先陣の隨兵を  
 三浦太郎兵衛尉同次郎兵衛尉天野兵衛尉宇都宮六郎  
 武田小五郎を初とて十餘人次の三浦平六兵衛尉後藤左  
 衛門尉葛西土屋の面々十餘人狩装束ゆ供奉は新君の儀  
 典ゆ。佐貫次郎洗谷太郎以下十餘人歩立ゆ。左右に  
 列て殿上人ゆ。伊予少將実雅朝臣諸太夫ゆ。甲斐右馬介  
 宗保以下數十人隨ひを。後陣の隨兵ゆ。鳴津左衛門尉中冬右  
 衛門尉已下十六人相模守時房ハ後殿ゆ。前後の行列は揃え  
 遙か後とて大押の役ゆ。千葉介成胤あり。他下向の道は分り

在り所々の守護人ホへ道辺ハ出迎大路ハ低頭して馳走ヤを。諸方より集り拜見の貴賤階の両傍垣の如く立並ひて行粧の美くし宛を感歎と程ゆく相列ハ入夏ハ王村とりの処ハ五日也逗留あり。是よりハ行粧を刷ひ一際整くとて。鎌倉ハ着せむひくる時ハ七月十九日午の刻ハ大倉谷ハ新造の所所を建と入まのせ萬のるハ二位の禪尼簾中めとて。北条時公の終ハ取扱を在鎌倉の諸臣ハ或ハ途迄出迎とて。四時向ひ或ハ御所ハ待受あり。残らぬ新ハ西ハ参りて。着興滞ち宛を賀しあり。賑ひぎめ宛くるゆ。諸士ハ中ハ及む。鎌倉中安堵のゆをを。萬歳と祝しける。これをも此若君二歳とトちがら。第ハ誕生の日ハ到されハ実ハ一歳ハ満る。乳房



を難多るる。ゆへに諱も附多し。君がまさと云名は、あまの心を  
 ある族も北条が心腹、覚束る死斗ひとあふも、罪うりける。そ息  
 式部太輔泰時兼く、此事を諫故、君の縁の諸家を需べり。程  
 も嗣君有ら。國家の清平を思ひ、若冠以上、壯年及  
 武將を居、鎌倉の業と、泰山の勤る。比し、多と、敷度  
 争ふとり、むも、父美時内、一物、五更、更み、安入、かく、嗣君も  
 定り、一、萬、度、心、を用、肺腑を苦め、此上、若事、あふ、父子  
 引別、も、不臣、を存、む、や、覚悟、を、え、する、也、竟、み、美時、へ、身  
 を終、る、や、大志、を成、こと、能、は、是、ぞ、諫、る、子、ある、時、へ、父、の、令、名、を、失  
 ざる、例、九代、の、榮、全、く、泰時、か、よ、れ、り、粵、に、又、故、羽、林、頼、家、卿、侍、女、の  
 内、の、蜜、め、ら、む、と、り、れ、り、う、の、胤、を、宿、一、在、殿、薨、させ、る、み、翌、年、

由遺紀念の女子産、る、也、尼、公、便、を、く、て、備、取、く、養、育、し、る、に  
 ける、甚、ご、病、身、の、生、質、也、成人、の、後、も、由、縁、辺、る、と、ひ、も、よ、と、傳、嬪  
 小、ひ、じ、う、尼、公、つ、え、を、せ、り、が、漸、也、夫、夫、も、ま、あ、ち、あ、り、の、ひ、一、ニ、公  
 由、款、限、か、く、鎌、倉、殿、の、血、脈、今、此、方、の、も、衣、也、年、ハ、遙、小、増、す、る、と、も、四  
 代、の、武、將、は、成、長、を、待、く、簾、中、に、一、と、定、め、置、き、り、此、姫、君、頼、經、公、ゆ、り  
 由、年、十五、も、増、く、似、合、し、く、ね、た、後、年、也、婚、姻、も、あ、り、が、其、五、年、め、也、薨、る、也  
 源、右、幕、下、の、血、脈、也、み、於、く、也、と、い、ふ、也  
 頼、茂、謀、及、滅、亡、尼、公、灵、夢、を、蒙、る、也  
 飛、鳥、尽、く、良、弓、蘊、也、國、治、く、功、臣、烹、る、是、故、也、張、良、祿、を、辞、し、く、  
 山林、の、遊、鎌、倉、の、功、臣、畠、山、和、田、を、韓、信、彭、越、み、等、し、く、二、位、の、禪、尼  
 也、呂、后、み、髣、髴、り、今、四、代、の、幼、君、や、ませ、る、也、武、將、の、宣、下、も、る、也、國



家の安危行末のあつんと日本国中の人心氣穩ちるるを京師  
 の守護近江守頼茂兼之の願空しく鎌倉を去る處を勅許あつて  
 幼君定すけとて安うるは多し是仙洞の計ひるる兼之我れ言ふ  
 叶されば主上へ奏聞を遂ぐる願も仙洞の妨めく我方へ有無の候  
 授さへる。此美不及るあそ怨しけれと大に怒るとはせん方る。無  
 念の心絶ざる如く幼君當七月也下向依くも護の面くも大津  
 の沢やぐ行列の從也送を勤む此時頼茂公中も我あそかる牙  
 合の備らんと多し込こみ引久く供奉加也。低頭敬拜する  
 無念とてと鬱憤愈増けき自ら仙洞へも無礼のるも多し  
 ける。仙洞又也咎の也沙汰ありしう。猶過言失敬ふ及也大に  
 逆隣る。官軍を昭陽舎の住所へ向られ圍せり頼茂門を

岡固郎等と下知し防戦程に官軍攻徳信引退く  
 頼茂も兼之大をあも。日来中合並し。伴類余黨多く右  
 近將監藤原近仲右兵衛尉源宗美前刑部丞平頼國ホ也つ  
 頼茂子加勢し仁壽殿に籠り切り出散くも寄りと斬  
 散しけきバ疵と蒙る者餘多し及ける。京都も獲伊賀太郎  
 左衛門尉光季和泉守親廣入道連阿此夏と安付我もくと  
 馳走り一日一夜攻戦ふ也大内の騒動大方る。双方も履死  
 人大勢も及ける頼茂へ昨日食事せし。翌夜烈心で戦ひ  
 兵糧とけり。間さる。矢種も尽力落けき。今ハ是迄と  
 殿に火とけ。自害も及んと。官軍もとつて付入んとする  
 如き煙火熾り燃ゆる炎の下り。頼茂が郎從切り出必死す苦



戦もつ支官軍及び守護の兩人が士卒も面を向はれ松を  
 切捲らまゝ又退け頼茂が士卒ハ燃る火に駈入く主従伴  
 類一人も残らば焼死多り折節風落し多く炎を吹上燐火  
 と散其雲煙大内と覆ひ御所の騒動又大方さる月卿雲  
 客主上新院を供奉し驚駭がく仙洞の御所へ立退せまへ  
 後京極攝政園自家実公安察使中納言光親卿と殿上人  
 少く内裏をち護し多し左右近衛の面々禁廷に詰り飛鳥  
 を敬言混雑言語盡し難し扱を逆徒を火中滅亡す  
 まへ敵一人もあはれ諸勢再び火を打消漸し鎮けることた  
 朔平門神社官外記廳陰陽寮園韓神等ハ無難し  
 残仁壽殿ハ回禄し殿中安置せられ観世音の尊像

應神天皇の御輿其外太常金御即位の藏人方往代ハ其  
 束餘の灵物宝品悉く灰燼と成りしを悲しむれ禁中  
 小かゝる軍發殿内血とあへ觸穢し及ぶれ頗る奇怪  
 不之後天狗の所為とやあへ是幻君也發輿の跡も七月  
 十二日十三日のふら此由早速鎌倉へ逃し及びけま北条右京  
 大夫義時上洛し禁中仙洞新院の汚穢嫌を相伺ひ炎  
 上の場所と檢かしく修造の下知を傳へ鎌倉に歸ける今  
 年八月信濃守行光急病差起職を辞し行光ハ廉直第一  
 の人あり政所の執事たりしが竟し此月空しく成ぬ諸士皆  
 惜る人処へ伊賀左衛門尉光季を京に召し政所の執事  
 補せしむるあり又先比誅戮せられ阿野四郎時元が故宅



鎌倉の濱辺に有る。此家ハ時元世と忍び北条の吹巻を  
 あくせよせよとせよとせよと他國に在るに便ありく父法  
 橋全成がるるも年月過れば鎌倉に居る望と達せんと聊  
 の宅と構え在りしが程るに内子石加られ駿列の住人とする  
 今ハ時元も亡び失けられた此旧宅荒壊し其傍有ける然るも  
 八月下旬に家の内より奇くも火燃出折節南風烈く吹車輪  
 のどろ燃散永福寺惣門の下より濱表の御倉の前と東ハ  
 名越の山際より西ハ若宮大路と限成の刻るるを二時斗が  
 間ハ造並る大慶の構諸臣の家々悉く焼失すと地下町  
 家の族資賤と持退新具と運び稚孫懐き老ると扶屋  
 崎子立迷煤火を吹雪くを滋く煙渦巻焼れば或も人子墮倒

さよ或ハ其身ハ猛火燃つた臥轉びて死する形勢啼叫声焦  
 熱叫喚の地獄眼前ハ焦死せる尸も小踏くハ盈塞美奴  
 乱せしごとくもされた故右大臣の旧跡二品禪尼の住宅幼君の  
 誼むるハ僅ハ餘燄を逃るハ見ぞ阿野時元が怨天崇を作  
 所ちりと萬民恐怖する程ハ此度焼死の冥謀逆人時元が  
 亡冥の爲諸寺ハ令と施餓鬼の供養を焼失の跡追々普  
 請を觸られ形如く經營され其年も暮兼久二庚辰年正  
 月廿七日故右大臣実朝公一周忌ハ當るハ依るハ追福の爲佛師  
 運慶法印ハ仰るハ五大尊を造立ハ勝長壽院の傍ハ如蓋瓦  
 建らるハ五佛堂と号らるハ導師ハ明禪法師ハ呪願說法あり預  
 主尼公其外君臣恭詣隨喜の感涙を催るとや當年若君

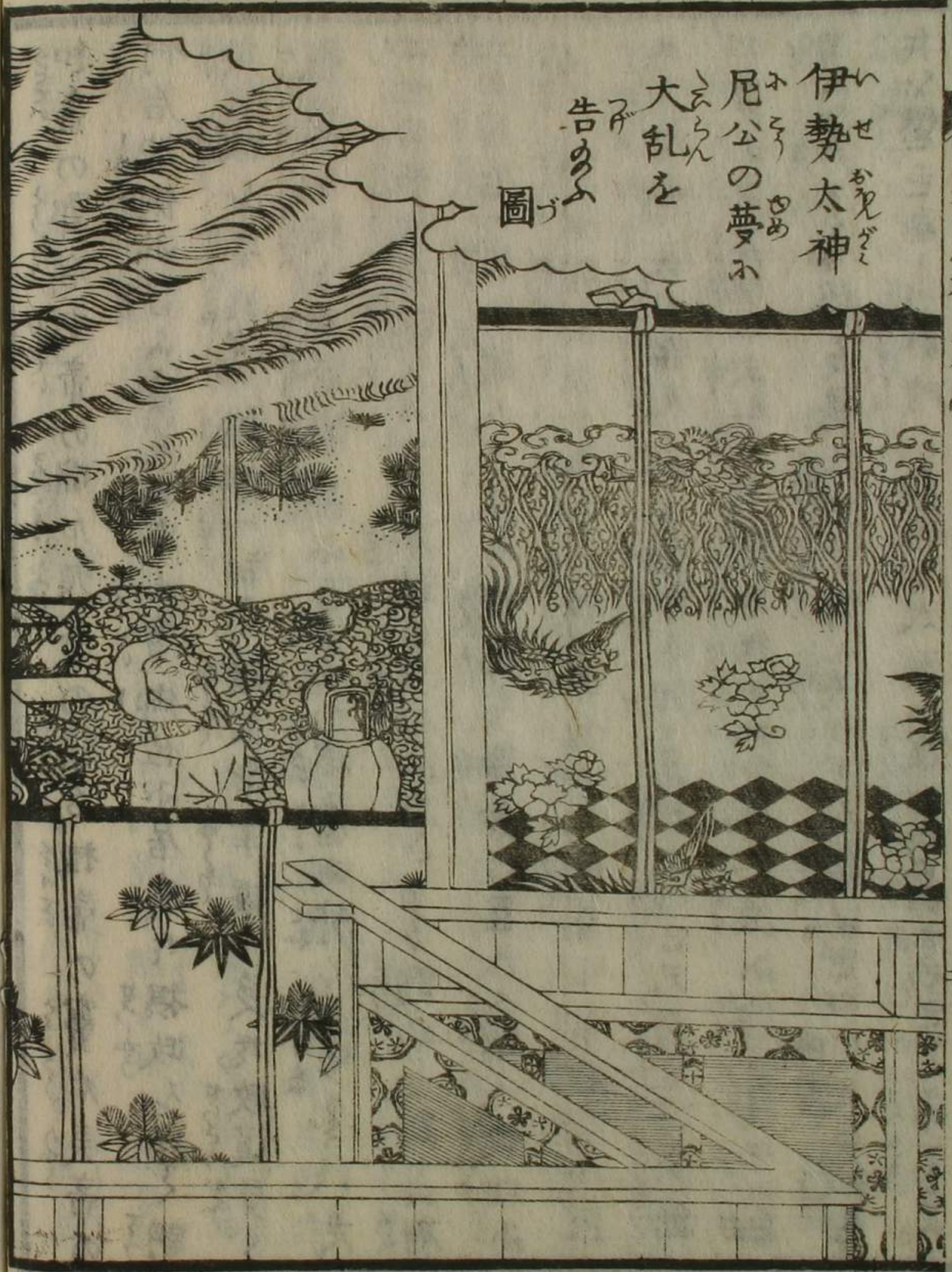


三歳めくは袴着の祝あり。大小の諸臣鎌倉の所不疾。後藤左衛門尉基綱廣蓋不汚装束を入く。お泰執權義時、此袴を奉る。此時若君ハ其盤不棄置なる。是故実口傳といり。爰時ハ袴の紐を結べ。二位禪尼抱取正面不置ヤ。ハ盃酒三献。北条泰時弓夫を捧げ。三浦弐村胃を進ぐ。家長ハ馬ノ庭上へ牽か。献了。上下千秋万歳の酒宴不預り。祝儀をヤ。述く各退散不及びたり。されバ當時幼君ハ名のをめく。二位の尼公政道を聽多。故諸國の按京都公卿の進退近皆禪尼の決斗ハこれバ。ふ尼將軍と敬伏。恐是奉る。唐土ハ例呂后不推輿。孝平帝の朝不孝元太后王氏朝不臨。政を聽多。王莽位を篡。漢の太業衰微。後漢ハ章帝の竇皇后

和帝の鄧后安帝の順后。順帝の梁后。桓帝の竇后。灵帝の何后。皆例不習ふ。のん日本女帝御位不居。久我摂政を以。朝廷の政を委。終了。頼朝ハ初く諸國を掌握。久我政道。多く。獻慮を伺。北条家盛。ふり。くハ。睿慮不背。く。と。少。く。は。是。二位の禪尼の誤とま。本朝の古今ハ。さ。る。る。例。不。然。る。唐土の呂后ハ。漢の罪人。日本の禪尼ハ。鎌倉の罪人。婦人政理。不。与。く。國家安全。ち。ん。と。古。往。ハ。真。其。如。く。今。来。も。有。る。る。は。これ。久。我。智。優。長。の。禪。尼。ハ。ね。と。松。歎。を。然。る。不。同。三。幸。日。三。月。尼。公。夢。想。の。り。の。り。其。面。二。丈。斗。の。大。鏡。光。輝。由。此。の。浦。の。浪。不。浮。び。其。中。不。氣。貴。き。声。し。く。我。ハ。是。天。照。太。神。ハ。天。下。を。鑒。不。世。の。中。大。不。乱。也。兵。を。懲。を。辱。し。泰。時。ハ。我。と。太。平。不。輝。さん。の。の。ぞ。や。と。く。夢。見。さ。る。



伊勢太神  
尾公の夢  
大乱を  
告る  
圖





禪尼深く信公を凝<sup>こ</sup>。祠官の外孫<sup>そご</sup>とも也。波多野次郎忠時  
を使<sup>つか</sup>と<sup>し</sup>く。太神宮<sup>たかみ</sup>願書を進<sup>すす</sup>せ伊勢の祭主<sup>まつりぬし</sup>神祇大副<sup>かみ</sup>隆宗  
朝臣<sup>あそ</sup>小詔<sup>こさだ</sup>し。幣帛<sup>へいひつ</sup>を献<sup>けん</sup>する。同<sup>どう</sup>ト月<sup>つき</sup>小三浦<sup>こみづら</sup>平六兵衛尉<sup>へいろう</sup>義  
村<sup>むら</sup>を駿河守<sup>しづま</sup>小任<sup>ことう</sup>せ。舎<sup>や</sup>第九郎<sup>くさう</sup>左衛門尉<sup>さゑもん</sup>胤<sup>むね</sup>茂<sup>しげ</sup>を判官<sup>はんごん</sup>小補<sup>こほ</sup>せ  
らる。先達<sup>さきだち</sup>と諸臣<sup>しよじん</sup>度<sup>た</sup>く任官<sup>にんくわん</sup>の夏<sup>なつ</sup>有<sup>あ</sup>けと茂村<sup>しげむら</sup>固<sup>かた</sup>く辞<sup>こと</sup>是<sup>こゝ</sup>を其  
心中<sup>しんちゆう</sup>一族<sup>いちぶ</sup>和<sup>わ</sup>田<sup>た</sup>茂盛<sup>しげ</sup>受領<sup>うりやう</sup>叶<sup>か</sup>ざりしを以<sup>もつ</sup>合<sup>あ</sup>泉<sup>いづみ</sup>下<sup>した</sup>の茂盛<sup>しげ</sup>へ對<sup>たい</sup>して聊  
遠慮<sup>えんりよ</sup>せし。新君<sup>しんきん</sup>出<sup>いで</sup>下<sup>した</sup>向<sup>むか</sup>且<sup>かつ</sup>袴着<sup>はかまぎ</sup>ホの節<sup>ふし</sup>も勤勞<sup>きんらう</sup>ある也。尼公<sup>にこう</sup>強  
小<sup>こ</sup>是<sup>こゝ</sup>を進<sup>すす</sup>め久<sup>ひさ</sup>し時<sup>とき</sup>小尼公<sup>こにこう</sup>夢<sup>む</sup>想<sup>そう</sup>を蒙<sup>まう</sup>ま<sup>ま</sup>し如<sup>ごと</sup>く兵革<sup>へいこく</sup>の憂<sup>うれ</sup>暫  
時<sup>とき</sup>不到<sup>くわうたう</sup>来<sup>き</sup>しける。其根<sup>そのね</sup>元<sup>もと</sup>と仙洞<sup>せんどう</sup>一院<sup>いついん</sup>も在<sup>あ</sup>在世<sup>せいせい</sup>の始<sup>はじめ</sup>武臣<sup>ぶしん</sup>権<sup>けん</sup>成  
執<sup>と</sup>く王威<sup>おうゐ</sup>を蔑<sup>あへ</sup>如<sup>ごと</sup>く禁中<sup>きんちゆう</sup>の衰<sup>しやい</sup>微<sup>ゐ</sup>せしを憤<sup>いかり</sup>多<sup>おほ</sup>し御位<sup>ごゐ</sup>を皇子<sup>こうし</sup>  
土御門<sup>とみかど</sup>の院<sup>いん</sup>小讓<sup>こじやう</sup>多<sup>おほ</sup>し。在<sup>あ</sup>在<sup>あ</sup>位<sup>い</sup>十二年<sup>じふにねん</sup>小<sup>こ</sup>し。何<sup>なに</sup>の子<sup>こ</sup>細<sup>こま</sup>かく

位<sup>ゐ</sup>を下<sup>くだ</sup>し。仙洞<sup>せんどう</sup>第二<sup>だいに</sup>の皇子<sup>こうし</sup>順德<sup>じゆんとく</sup>院<sup>いん</sup>を在<sup>あ</sup>位<sup>い</sup>小<sup>こ</sup>即<sup>すなは</sup>ち是<sup>こゝ</sup>は當  
履<sup>ふみ</sup>也。寵愛<sup>ちゆうあい</sup>の故<sup>ゆゑ</sup>とせける。土御門<sup>とみかど</sup>院<sup>いん</sup>を新院<sup>しんいん</sup>とす。依<sup>よ</sup>く仙洞<sup>せんどう</sup>と  
新院<sup>しんいん</sup>とも也。不<sup>ふ</sup>快<sup>くわい</sup>小<sup>こ</sup>成<sup>なり</sup>たり。かくし。國家<sup>こくが</sup>のるま主<sup>しゆ</sup>上<sup>かみ</sup>も任<sup>にん</sup>じた  
や。兵管<sup>へいくわん</sup>仙洞<sup>せんどう</sup>政理<sup>せいり</sup>の由<sup>よし</sup>口<sup>くち</sup>入<sup>いり</sup>あり。其間<sup>そのま</sup>め専<sup>せん</sup>ら武道<sup>ぶどう</sup>を好<sup>この</sup>む。  
北面<sup>きたへ</sup>の外<sup>の外</sup>小<sup>こ</sup>西面<sup>さいへん</sup>の侍<sup>さむらい</sup>を置<sup>お</sup>く。諸國<sup>しよこく</sup>の武士<sup>ぶし</sup>を召<sup>よ</sup>集<sup>あ</sup>常<sup>じょう</sup>小<sup>こ</sup>兵術<sup>へいじゆつ</sup>調  
練<sup>れん</sup>とる。一<sup>いつ</sup>めり。然<sup>しか</sup>る小<sup>こ</sup>信列<sup>しんれつ</sup>の住人<sup>ぢゆうじん</sup>仁科<sup>にしか</sup>二郎<sup>にじろう</sup>平盛<sup>へいせい</sup>遠<sup>とほ</sup>く。弓  
馬<sup>うま</sup>を嗜<sup>この</sup>者<sup>もの</sup>あり。子息<sup>こしき</sup>太郎<sup>たうらう</sup>を連<sup>れん</sup>熊野<sup>くまの</sup>へ泰<sup>たい</sup>箆<sup>へい</sup>さき。折<sup>お</sup>節<sup>せつ</sup>仙  
洞<sup>せんどう</sup>も熊野<sup>くまの</sup>へ詣<sup>よ</sup>め。道<sup>みち</sup>小<sup>こ</sup>遇<sup>あ</sup>たり。誰<sup>たれ</sup>ぞと也。尋<sup>たづ</sup>ねる。あつとく。と也。谷  
中<sup>ちゆうちゆう</sup>上げと。最<sup>も</sup>清<sup>せい</sup>藤<sup>とう</sup>童<sup>どう</sup>ちん。西面<sup>さいへん</sup>小<sup>こ</sup>召<sup>よ</sup>仕<sup>し</sup>んと宣<sup>のたま</sup>ふ。故<sup>ゆゑ</sup>盛<sup>せい</sup>遠<sup>とほ</sup>面目<sup>めんもく</sup>と。多<sup>おほ</sup>ひ  
子息<sup>こしき</sup>を具<sup>ぐ</sup>し。仙洞<sup>せんどう</sup>へ泰<sup>たい</sup>上<sup>かみ</sup>せしを。是<sup>こゝ</sup>時<sup>とき</sup>傳<sup>でん</sup>兼<sup>けん</sup>閑<sup>かん</sup>東<sup>とう</sup>也。恩<sup>おん</sup>の武士<sup>ぶし</sup>伺  
も立<sup>た</sup>院<sup>いん</sup>中<sup>ちゆうちゆう</sup>の奉<sup>ほう</sup>公<sup>こう</sup>へ願<sup>ねん</sup>心<sup>しん</sup>泊<sup>はく</sup>すと。信列<sup>しんれつ</sup>の所<sup>ところ</sup>領<sup>りやう</sup>を没<sup>ぼつ</sup>収<sup>しゆ</sup>。仁科<sup>にしか</sup>



盛遠（きん）深（しん）く（く）歎（なげ）ける（る）ふ（ふ）依（よ）る（る）。仙洞（せんどう）より（より）内口（うちぐち）入（い）所（しよ）領（りやう）を（を）返（かへ）し（し）。与（よ）び（び）て（て）仙音院（せんおんいん）  
 宣（のたま）を下（くだ）さ（さ）る（る）。と（と）の（の）代（しろ）。美時（みとき）曾（そと）く（く）用（もち）ひ（ひ）ま（ま）る（る）。又（また）其（その）比（ひ）仙洞（せんどう）召（よ）す（す）  
 仕（つか）る（る）。白拍子（しやくぱくし）。龜菊（かめぎく）と（と）云（い）ふ（ふ）。美女（みよめ）有（あ）。此（この）罪（つみ）愛（あい）の（の）餘（あま）工（さ）。攝（と）り（り）長（なが）江（え）倉（くら）橋（はし）の  
 ニ（に）ケ（け）庄（ぢやう）を（を）下（くだ）さ（さ）る（る）。地頭（ぢぢう）更（さら）不（ふ）明（めい）渡（わたり）。深（しん）く（く）憤（い）歎（なげ）ける（る）。凶（きよう）急（きゆう）  
 関東（かんとう）へ（へ）地頭（ぢぢう）と（と）改易（かいえき）せ（せ）。と（と）有（あ）ける（る）。美時（みとき）地頭（ぢぢう）職（しやく）の（の）上（かみ）古（ふる）へ（へ）る（る）  
 一（ひと）派（は）故（こ）右（みぎ）大將（だいしやう）家平（けへい）氏（うぢ）追討（おいつた）の（の）賞（しょう）こ（こ）。日本（にっぽん）摠（もろ）追捕（おつぱつ）使（し）不（ふ）補（おぎな）せ（せ）  
 右（みぎ）合戦（がくせん）不（ふ）忠（ちゆう）切（せつ）ある（る）。輩（たぐひ）不（ふ）賞（しょう）。賜（たま）は（は）る（る）。さ（さ）ける（る）。服（ふく）料（りやう）を（を）不（ふ）義（ぎ）時（とき）  
 手（て）ひ（ひ）を（を）以（も）て（て）。地頭（ぢぢう）を（を）改易（かいえき）仕（つか）げ（げ）換（か）る（る）。と（と）中（ちゆう）用（もち）を（を）不（ふ）かく（く）。叔（しやく）意（い）不（ふ）任（にん）  
 ぬ（ぬ）その（の）こ（こ）ち（ち）れ（れ）ば

人（ひと）をも（も）重（おも）へ（へ）も（も）怨（うら）め（め）。無端（むたん）に（に）召（よ）す（す）。此（この）後（ご）萬（まん）更（さら）関東（かんとう）より（より）支（し）る（る）計（か）ひ（ひ）の（の）こ（こ）と（と）詠（よ）む（む）。仙（せん）

洞彼（どう）とい（い）ひ（ひ）尾（び）とい（い）ひ（ひ）安（やす）ら（ら）ぬ（ぬ）る（る）。に（に）召（よ）す（す）。此（この）上（かみ）も（も）関東（かんとう）と（と）伐（き）美時（みとき）  
 を（を）亡（な）し（し）る（る）。困（こ）る（る）。の（の）兵（へい）を（を）召（よ）す（す）。関東（かんとう）へ（へ）志（し）を（を）寄（よ）る（る）。族（しやく）も（も）其（その）命（いのち）  
 の（の）重（おも）き（き）不（ふ）止（と）ま（ま）と（と）成（な）る（る）。味（あじ）方（かた）不（ふ）弛（ゆる）。泰（たい）ける（る）。忽（たち）ち（ち）大軍（だいぐん）不（ふ）及（およ）ば（ば）り



